作文の部　高校生の部

優秀賞

僕の生きる道

愛知県立稲沢高等学校 農業土木科　1年
野　杁　哲　郎

「父は僕の憧れだ!」僕が、稲沢高校農業土木科に入学した理由は、父がこの稲沢高校の卒業生で、父のような土木の仕事に就きたいと思い入学しました。そして僕は、土木のことを基礎からしっかり学び、大学に進学し将来は、土木の仕事に就きたいと思っています。

僕は、小さい頃から父の仕事について話を聞いていて、橋や道路などを作っていると聞いていましたが、「かっこいい!」とか「すごい!」とは思いませんでした。「橋や道路なんて簡単に作れそう。」と思っていました。そんなことを考えていると、中学校のインターンシップの授業で、父が現場に連れて行ってくれました。そこでは、古くなった道路の補修工事をしていました。父は、レベルという器械を使い、水準測量を行っていました。標尺を鉛直に立てろと言われて立てたとき、ものすごい強い口調でしかられました。「ただ単に立てて良いわけではない。誤差が出る。標尺を鉛直に立てるには靴と標尺とで正三角形にするのがポイントだ。」と、器械を据え付けるより、1番難しいのが標尺を立てることだと教えてもらいました。その時、僕はどれだけ土木工事を甘く見ていたのだろと感じました。一つ一つの作業を通して、橋や道路をつくるのか、どれほど大変なのか自分の目で見て、経験をして、はじめて実感しました。父の話では、「この仕事は、たくさんの人の仕事から成り立っていると聴き、父達が作った、橋や道路が、設計ミスで壊れてしまったら、大勢の人の命が奪われる事になるんだ。」「ほかにも現場事故で脊髄損傷になり車いすで生活することになった仲間もいる。」「土木の仕事は、人の命が大きく関わる仕事なんだ。」「土木をやるなら中途半端な気持ちでするな。」僕の気持ちは大きく動き出しました。そして、土木に関わることは全て人の命が関わっていることを忘れずに、人々が安心し、信頼できる構造物を作ろうと思いました。そして、僕が将来の仕事で土木をやろうと決意した出来事が起きました。それは東日本大震災です。

震災では、大勢の人が亡くなりました。とても悲しいことです。僕は当時、小学校で卒業式の練習をしていました。僕達の地域では津波による被害がありませんでした。ですが、家に帰ってニュースを見ると東北では津波などでたくさんの人が亡くなったり、津波で家が流され住む場所がない人や親と離れてしまった子ども達などを見ました。日本中の建設会社が現地に派遣され1日でも早い復興を願い、一生懸命仮設住宅の建設やがれき処理を行っている映像が映し出されていました。僕は、津波の恐ろしさと同時に土木の素晴らしい技術についてはじめて知りました。僕の夢は、土木の仕事といいましたがこの映像を見るまでは、土木の仕事の中に、震災復興の仕事が大きく関わっているという事は、あまり意識していませんでした。このことを考えたとき自分の考えの甘さに恥ずかしくなると同時により、一層土木の仕事への思いが強くなりました。僕は、父の背中を見て育ってきたので、土木の仕事に就きたいと漠然な目標しかなかったのですが、今は違います。「今、僕は本気で土木の仕事を通して人々を助ける、土木技術者になりたいです。」そして現在、僕は農業土木科で測量や施工を学んでいます。また、資格を一つでも多く取るための勉強を積極的に取り組んでいます。また休みの日には、父の仕事を手伝いながら、土木についての知識や技術を教えてもらっています。土木の仕事は、体力も大切なので日々剣道部で頑張っています。

土木の仕事に就きたい、という夢ができてから、今までは、すぐに諦めていたことも、諦めずに最後までやり遂げようと思うようになりました。これからは、稲沢高校で毎日を一生懸命、諦めずに頑張りたいと思います。そして、いつかは人々から信頼される土木技術者を目指します。それが僕の生きる道です。